

第8回日本言語文化学会報告

平成6年6月4日土曜日、初夏を思わせる日差しのもと、お茶の水女子大学にて、無事日本言語文化学会を開催することができました。本研究会も早いもので8回目となりました。これも会員の皆様のご協力のおかげと存じます。心より御礼申し上げます。

今回の研究会では四つの発表がございました。「初級日本語学習者におけるかな文字習得の縦断的研究」、「北京語話者と上海語話者の日本語学習における有声・無声破裂音の横断的研究」、「ディクテーションの誤答分析の試み」という日本語学習者の日本語習得上の諸問題に関わる発表、「安部公房の文学における故郷と都市の関係」という日本文学に関する留学生からの発表と、今回も多様な問題が取り上げられました。それぞれの発表に対し、活発な質疑応答がなされ、ご来場の皆様が非常に興味をいっしょにいらっしゃる様子が見られました。

研究会終了後、恒例の懇親会が行われました。6月は学会・研究会の多い忙しい時期でもありお帰りになった方もいらっしゃいましたが、出席者の皆様はそれぞれさかんに近況報告、情報交換等をなさっていらした様子で、気さくな雰囲気となりました。

研究会・懇親会の準備・実行には日本語文化専攻のM1・2年生の皆さんに大変ご協力いただきました。今回はじめて運営に加わらせていただいた私にはとても心強く、この場を借りて御礼申し上げます。

研究会誌7号の巻末で申し上げましたように、次回の研究会はお茶の水女子大学国語国文学会との合同開催となります。双方の交流を通じ、いっそうの発展が期待されます。ますます多くの皆様より研究発表の申し込み、論文の投稿をいただけますように願っております。

(大島弥生)